

東南アジアの銀行業 — 変遷と展望 —



一橋大学
HITOTSUBASHI UNIVERSITY

奥田 英信 (一橋大学)

構成

第1節 東南アジア銀行業の変遷

第2節 東南アジア金融システムの新局面

第3節 東南アジア銀行業の現状

第4節 これからの金融システムを巡って

第1節 東南アジア銀行業の変遷

	1960	1970	1980
マクロ・バランス		投資 > 貯蓄 ドルペッグ	
開発政策		政府支援の工業化 輸入代替	民間主導(外資活用) 輸出指向
生産構造	農業	軽工業	産業構造高度化
金融システム		銀行 規制された金融	銀行・株式市場 金融自由化
銀行	地場銀行の育成 外銀のシェア低下	地場銀行の育成	地場銀行の保護
金融のニーズ	商業金融	商業金融 工業化資金	
金融の供給	外銀: 対外取引、他 地場銀: 地場商業 政府系: 農村・工業化	地場銀: 地場商業 外銀: 対外取引 政府系: 農村・工業化	地場銀: 商業・他 外銀: 外資系 (政府系: 農村)

第1節 東南アジア銀行業の変遷(続き)

	1990	2000	2015
マクロ・バランス	投資>貯蓄 ドルペッグ	貯蓄>投資 伸縮的相場	
開発政策	輸出主導成長	輸出主導成長	
生産構造	組み立て 生産基地	現地化 消費市場	
金融システム	規制緩和 銀行自由化	制度改革 債券市場整備	
銀行	外銀と分断	外銀の本格進出 競合と補完	
金融のニーズ	産業構造高度化 金融資産・家計金融	産業構造高度化 インフラ・工業化資金	
金融の供給	外銀:外資系、他 地場銀:地場商業 (政府系:農村)	地場銀:地場商業 外銀:外資系・地場企業 (政府系:農村・社会)	

第2節 東南アジア金融システムの新局面

2.1 マクロ資金バランスの変化

①資産蓄積

東南アジア各国は、就業人口比率増加と一人当たり所得上昇の相乗効果で、国内需要が拡大し資産蓄積が進む。マクロ資金バランスは黒字化の傾向が続く。

②資金需要面

資金需要面では、消費需要、住宅投資資金需要が拡大。資金供給面では、資産の多様化、年金・保険市場が拡大。

③インフラ投資

一方で、急速な経済成長を維持するために、インフラ投資は今後とも拡大が見込まれ、長期投資資金の調達が不可欠。

第2節 アジア金融システムの新局面(続き)

2.2 内需重視＝現地化型発展

①グローバル・インバランス

アジア諸国は、先進諸国への輸出によって成長を加速。経常収支の黒字化、外貨準備の拡大(＝バッファー機能)、先進諸国への資金還流(＝購買力移転)を実現。サブプライム・ショック、サブプライム・ショック後の欧米諸国の景気低迷は、従来の成長パターンの変化を迫る？

②国内市場拡大

国内市場(中間層)が拡大し、成長のパターンがより国内市場を指向つつある。今後は、内需がより主導的な役割を担う経済発展への転換が望ましい(可能？)。

③生産構造の変化

2000年代の半ば以降、リーディング産業は引き続き外資系企業が担うものの、拡大した国内市場を狙った外国投資が徐々に増えてきている。2000年代以降は、部品や素材についても、現地化比率が相当に高まっている。

第3節 東南アジア銀行業の現状

3.1 現地金融システムの変化

①強化された安定性

マクロ政策：為替政策・外準積み増し・資本流入規制
金融規制：健全性規制・対外開放
企業改革：情報開示

②銀行

依然として銀行中心の金融システム

③証券(債券)市場

見方は分かれる
国公債が発行の中心(社債は未だ不十分?)

3.2 我が国金融機関の進出の意義

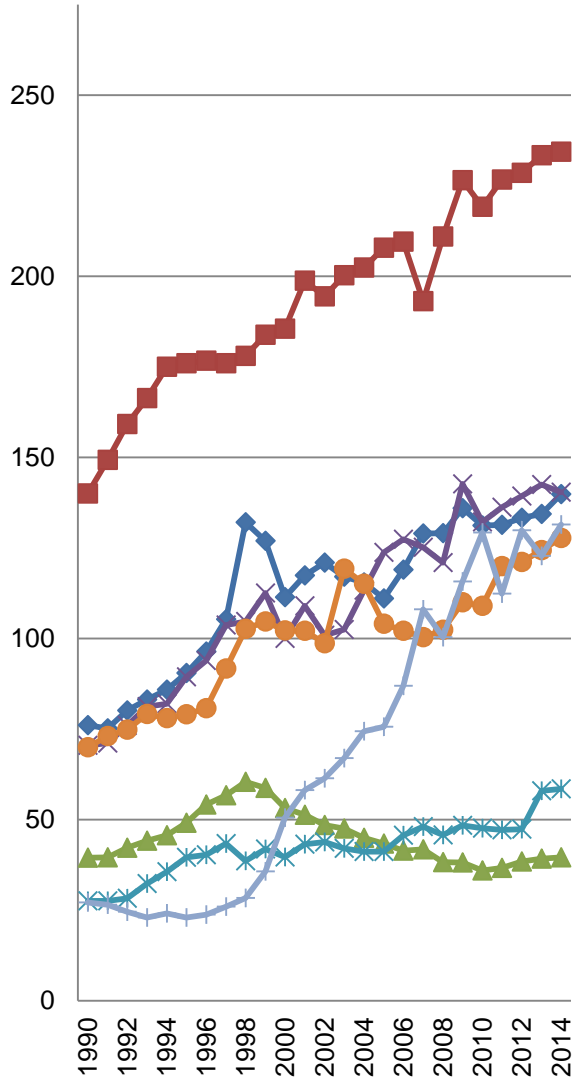
①メガバンク

②証券・保険会社

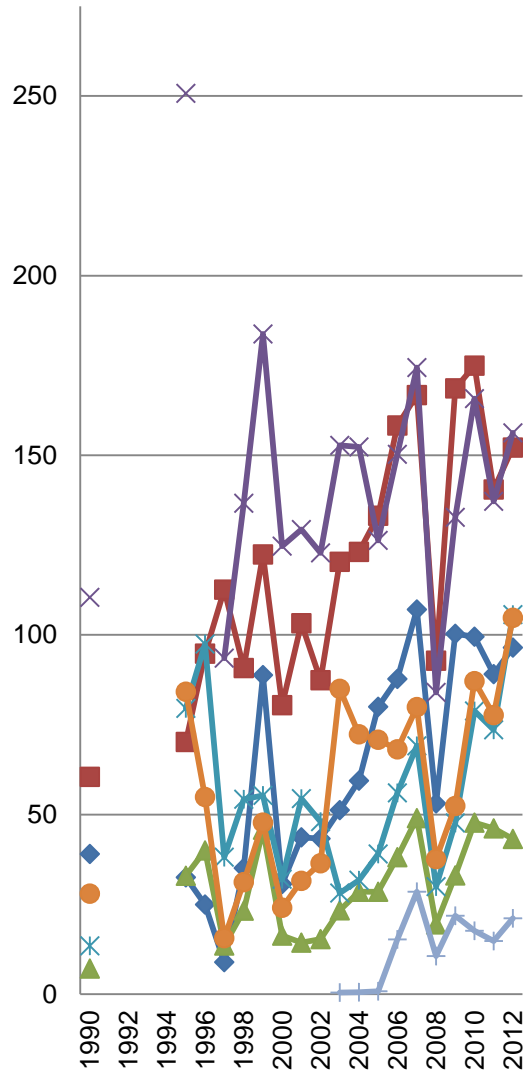
③地銀

分断された市場の統合役：情報・資金・サービスの橋渡し

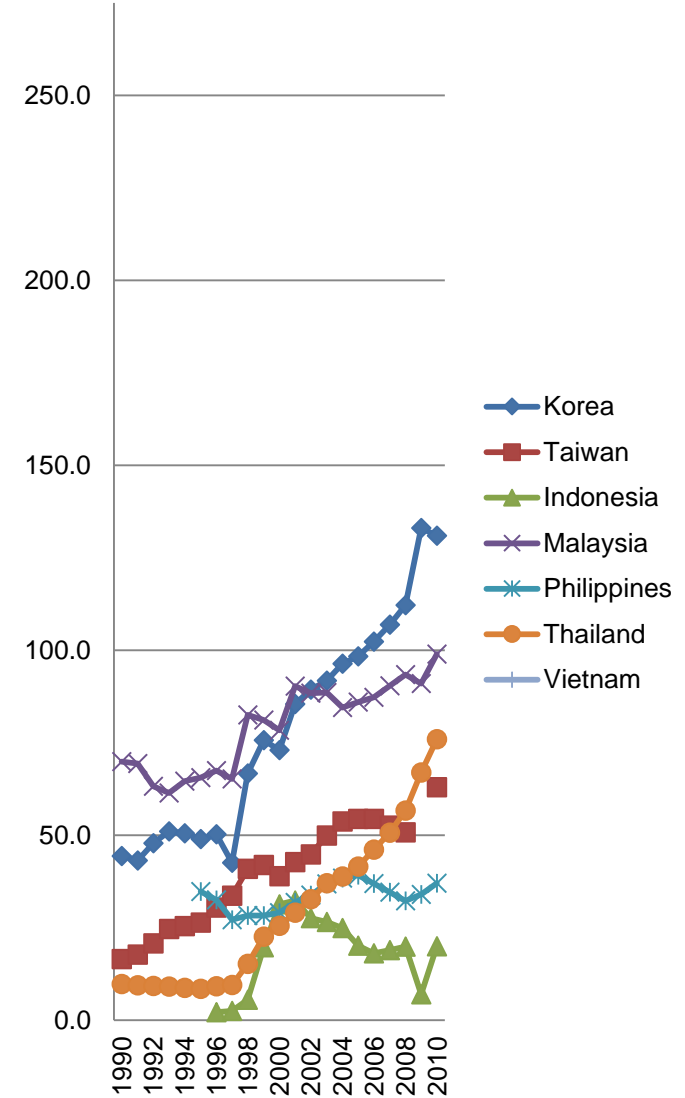
Money Supply (M2)/ GDP



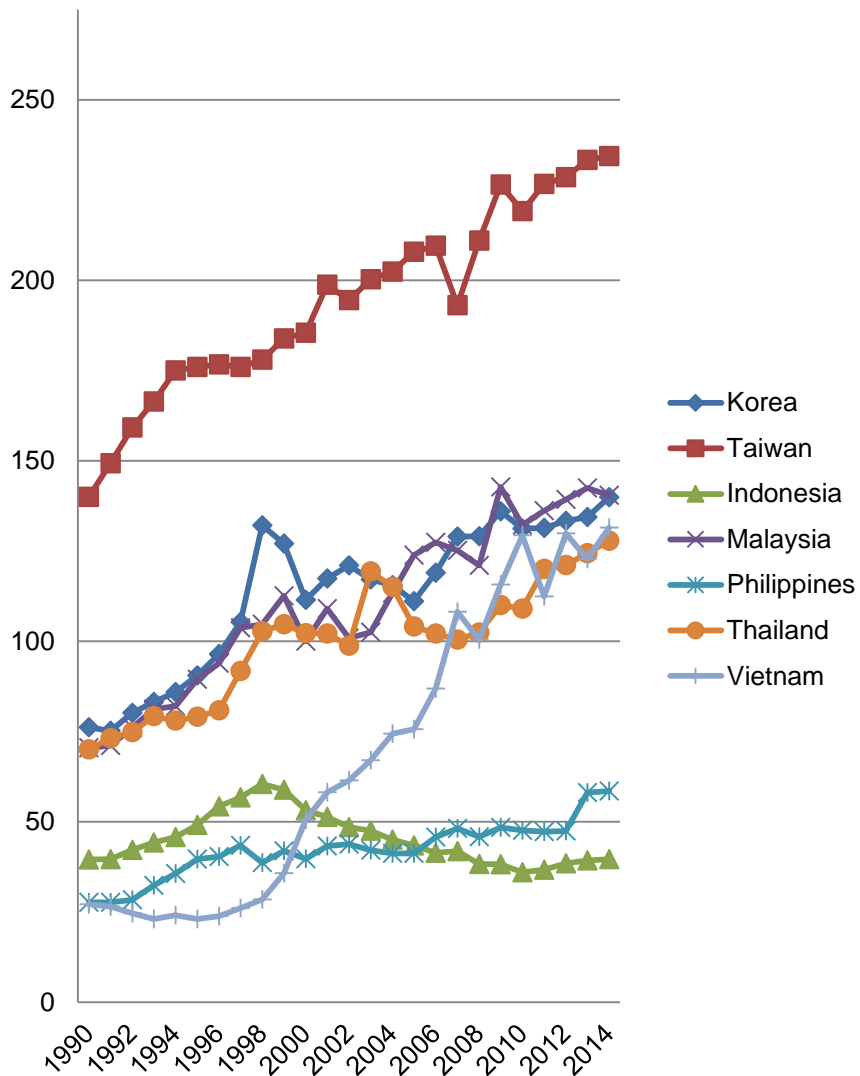
Stock Market Capitalization/ GDP



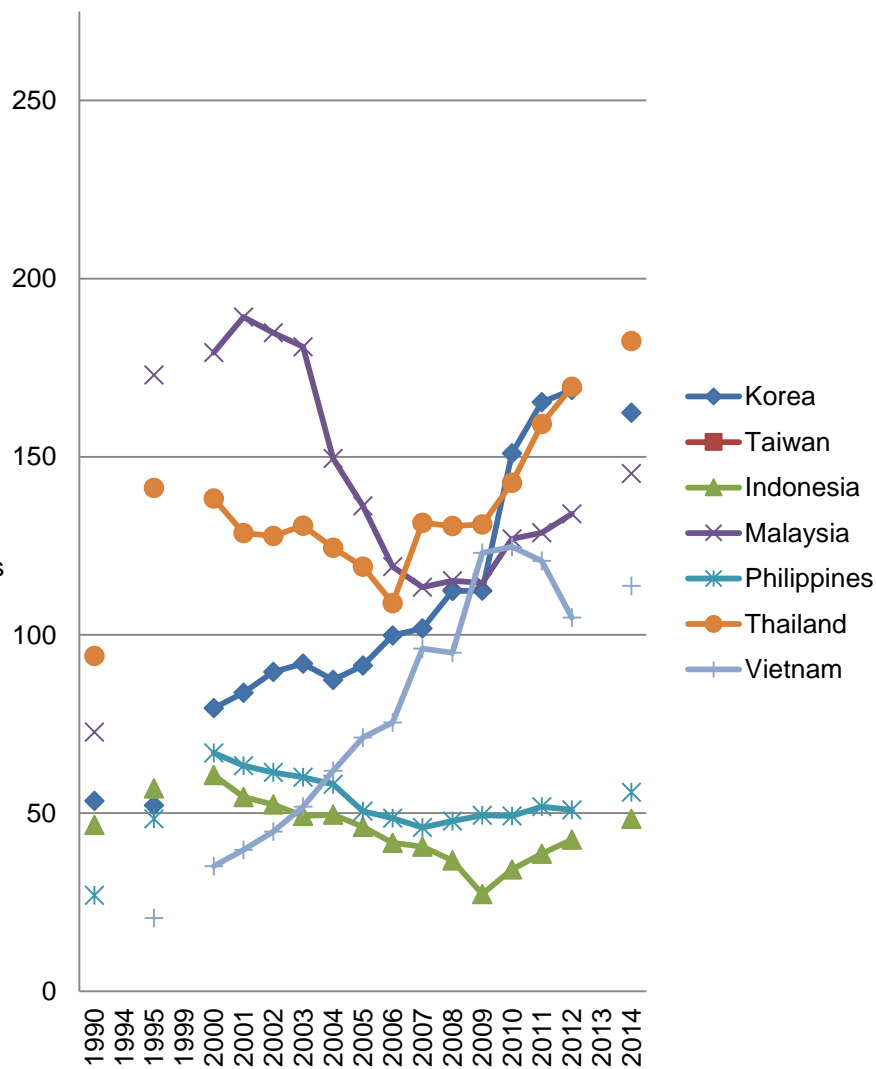
Bond outstanding value/GDP



Money Supply (M2)/ GDP



Domestic Credit provided by Banking Sector/GDP



第4節 これからの金融システムを巡って

4.1 論点1:銀行間の競争と補完

①地場銀行大手

資金力:各国で上位2-3行

技術:比較的熱心にキャッチアップ

情報:域内諸国にも進出。自国企業向けと華人ネットワーク。

②地場銀行非大手

資金力:地場の中堅行

情報:自国企業向け

③グローバル外銀

資金力:欧米系のグローバル銀行

技術:ニーズに対応

情報:グローバルなネットワーク

④マイクロ・ファイナンス

資金力:商業銀行と類似の行動を執るものも。

銀行自体がMFを行う場合も。

情報:独自性

第4節 これからの金融システムを巡って(続き)

4.2 論点2:銀行と証券市場の競争と補完

①銀行借入

負債性資金／長期・短期資金

相対取引(非市場性資金)

モニタリング機能が強い／再交渉問題の長・短所

スクリーニングの長所と短所(代理人機能)

②株式発行

非負債性資金／長期性資金

市場性資金(多数対多数)

モニタリング機能が弱い

スクリーニングの長所と短所(代理人機能)

③社債発行

負債性資金／主に長期性資金

市場性資金(多数対多数)

モニタリング機能が弱い／再交渉問題の長・短所

スクリーニングの長所と短所(代理人機能)

中小企業

大企業

公企業・インフラ

第4節 これからの金融システムを巡って(続き)

4.3 論点3:社会的・制度的な要素

①ビジネスグループ(コングロマリット)

経営資源の節約
多角化の利益
外生的なショックへの強さ
集団的な懲罰(対抗力)
情報の共有

②華人系などネットワーク

情報の共有
外生的なショックへの強さ
集団的な懲罰(対抗力)

③外資系企業

経営資源の節約
外生的なショックへの強さ
情報の共有

内部資本市場



銀行借入?
株式・社債発行?
上場の選択?
資本構成?

ご清聴ありがとうございました。